

家畜損害防止関連情報

◆ 第13回 ウシは餌に満足していると思いますか？

今回は、ウシと管理する人の努力について考えましょう。皆さんにお尋ねしますが、搾乳牛の乳餌比(乳代に対する飼料費(自給飼料を含む)。一般には、30%以下が望ましい)がいくらぐらいですか？

分娩予定日頃のウシは、第一胃＝ルーメン(90～250ℓ。ドラム缶約1本分)と、子宮(胎子40kg、胎水(尿水と羊水)約30kg)と、胎膜(尿膜と羊膜)約10kgの合計が75～130kgで体重の30%以上を占めております。

また、ウシは1回に80～120g程度の塊を反芻し、穀類は3分程の間に30～40回ほどかみ砕きます。しかし、乾草のような繊維の多い餌を与えると2～3倍の時間をかけます。この餌をかんでいる時間の長さは、大変大切な意味を持っています。

口を動かす回数が増え、時間が長くなると、唾液(だえき)の量が増え、その中に含まれる重曹の量も増え(1日に約500gの重曹を唾液に出す)、胃の中を中性に保つ作用が働き、バクテリアの繁殖能力を高め、繊維を消化しやすくします。

しかし、乾物の給与量を体重の4%以上にしたくとも、お腹の中は一杯です(図1)。どうしても、穀類や動物性の飼料に頼らざるを得なくなります。穀類の給与料が、体重の1%を超えると粗飼料の摂取量が減り、胃の変位や代謝病の原因となります(重曹が減る事が誘因)。さらに、草の栄養は収穫する時期によって違いがあります(図2)。

図1 泌乳量と乾物摂取量との関係 (伊藤、1984)

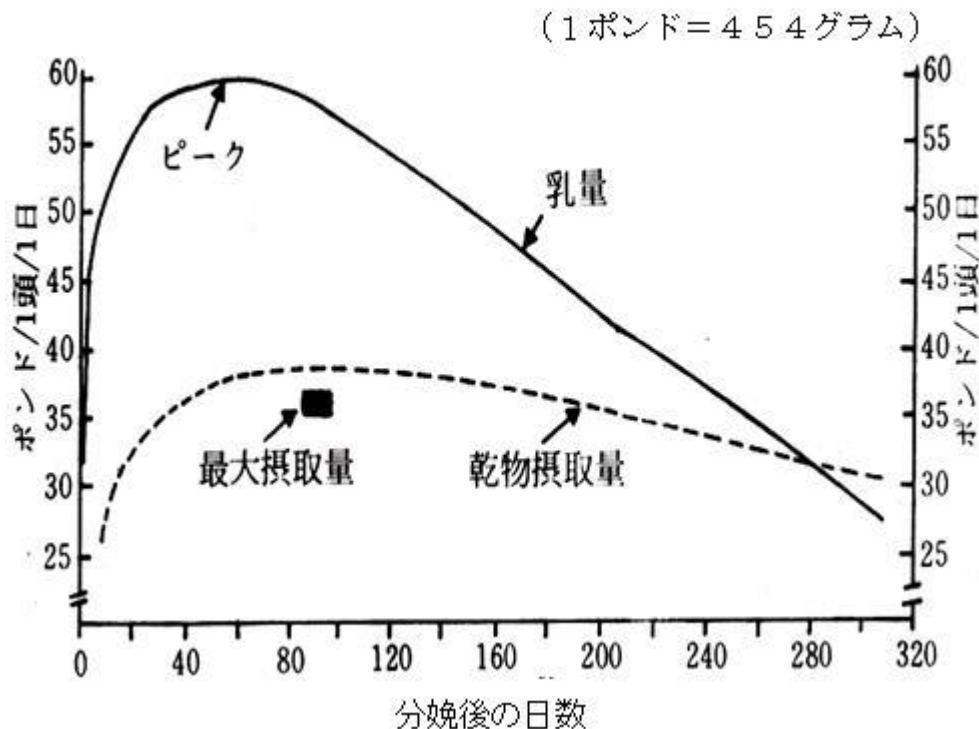


図2 牧草の草丈と栄養価

(CP=粗タンパク質=飼料の窒素含有量に6.25を掛けた数値。

TDN=可消化養分総量=飼料エネルギーの単位。吉田、1981)

草丈	栄養価	
	CP	TDN
cm	%	
15	23	76
22	22	77
33	20	73
48	17	66

ウシは、与えられている餌に満足していますか？

農業共済新聞 岩手版 2006年2月1週号より